

正観

2023年 11月号

(無情の現象界の奥に恒常不変の本体的、理念的なものを正しく心に写し対処する)

会長 遠藤 勝雄 ・ 幹事長 三條 貞夫 ・ 事務局長 遠藤 近志

年の瀬を迎えましたが皆様方にはお変わりなくお過ごしのことと存じます。

本年は新型コロナウイルスに対する自粛が緩み、皆様方のご協力のお陰で本地区クラブ事業が活発に行えましたことに感謝申し上げます。

地区例会では遠藤勝雄先生には毎回講習内容を吟味され、我々にわかりやすく解説されるご指導は有難い限りです。ことに剣先、鎧を活かした攻め方や相手の反応に順じた技の出し方を段階的に習得できることは、「活人剣」の理解とともに自力を高める素晴らしい機会となりました。

10月の北上例会では菅先生のビデオカメラで収録した講習内容は會澤先生が編集されネットで視聴可能な状態になりましたが、遠藤先生からのご要望で今回の参加者のみに提供されます。

今後の例会にもできるだけ多くの方に参加していただき、講習内容を体感していただきながら修行の一環としていただければ幸いです。

どうぞよいお年をお迎えください。

NPO 法人 国際社会人剣道クラブ 東北地区クラブ

幹事長 三 條 貞 夫

1 岩手県北上市例会のご報告

10月14日(土)、15日(日)の2日間、岩手県北上市のふるさと体験館「北上」において、令和5年度第4回目となる東北地区クラブ例会を開催いたしました。16名の会員の方にご参加いただき活気に満ちた例会となりました。懇切丁寧にご指導いただきました遠藤先生、曾根先生、三條先生にお礼申し上げますとともに、素晴らしい会場をご高配くださいました会澤先生、菅先生に心より感謝申し上げます。

開会にあたっては、遠藤会長から「思うようにいかないところをクリアして、自分の剣道を高めるところにおもしろみがある。深く自分の剣道を確認し、自分の内面にシフト、自分の良きを出すことを心がけてください。」とご挨拶をいただき、北上市例会がスタートしました。



10月14日(土)

○審査研修：審査研修の立ち合いでいただいたご指導内容を箇条書きで記載します。

- ・作りすぎないこと、思い切って打つ。急いでいかない。相手を見ながら、面返し胴、打たせて打つ、手打ちにならない、無拍子の打ち。打ち気を表す、表さない。
- ・打った後には無駄な動きをしない。
- ・面を打ったら途中で止めない(打ち切る)。胴打ちの時には左肩を右に入れなければOK。小手の相打ちには面の定石。相手が離れないときには突いて離すようなことはしない(品位なしととられる)、スッと下がればよい。
- ・打たなければの気持ちが強すぎる。
- ・わずかでも良いので、前に出てきばく。
- ・ズードン、ズードンのタイミングではダメ。ズーから溜めるなど工夫する。入っただけで相手が来るところからタンタン、充実した氣勢を徹底する。気を抜かない。
- ・どこで自分が打とうとするかの機会を振り返る。動いたところで出頭をとられるか、捉えているか。仕掛け技で行くときに、後の先で、受けっぱなしにしない。自分の氣迫が相手に伝わって我慢できないところ。相手を引き出しているか?思い切って打っているか、機会となっているかの確認。相手とのやり取りの中で技を出すということ。
- ・対二刀、上段に対する打ち。左手、左胴。間を詰められると対応できなくなる。



○指導稽古

審査研修の後は遠藤先生、曾根先生、三條先生に加えて、地元岩手県から安達先先生(教士八段)が元立ち、稽古をつけていただきました。

○懇親会

遠藤会長から「稽古終了後の剣道談義は何にも勝る酒の肴、剣道談義に花をさかせてください」とご挨拶いただいた後に、照井先生から乾杯のご発声をいただき、交剣知愛を深めました。



10月15日（日）

○講義と実践

前日の立ち合いを踏まえて、遠藤先生から会員の皆様に今必要な考え方の講義と実際の技の稽古を実践しながらのご指導いただきました。

<講義>

・刀を使うときには体さばきが大事

・日本剣道形：

打ち太刀（実態）は師→弟子に勝ち方を教える、つまりは、仕太刀の気のもっとも充実したところで技を出す

仕太刀（影）は弟子→打ち太刀よりも先に動作をしない

・剣道は単純動作だから癖がついてしまう。体で覚えていく

・気を見る、入り身にならんとするところ→自分に欠陥があるから打たれた、相手の動作を見切っていないとダメ

・自分が仕太刀になったつもりで（影）終始充実した氣勢で

・隙がなかったら打つな、（自ら働きかけて）隙がなければ隙を作れ

・気眼は自分で体得するしかない

・統一見解とは練られたもの

・日本剣道形の原点回帰で竹刀剣道に活用する

・単純動作を練り上げていく、攻めていく、心の問題

・今の自分のレベルでしか判断できない

・毎日の稽古で先生の言葉から「なぜそうだったのか」と気づきがでてくる

・「観の目」、目は心、その人の考えていることは目に映る。心で観るということ

・戦術としては“裏”をかく。上と見せて下、右と見せて左→だから剣道は難しい

・心の中に相手の心を写しとる、今日は「仕太刀の視点」で

・良い剣道をする人は立ったところから、迷わない心がある

・相手にあわせて堂々と入り、終わりには感謝の心、品位と風格に繋がる

・位：威力、威風 気の充実→体の勢い

・今日もう一度自分の剣道を見直す

・先に打って勝とうというのは強み、上級者になったら技をどんどん出すところから技を整理していくところへ→理合、風格、品位

・「打たない」というキーワードが位に繋がる。

・達成レベル、要求レベルの合致で合格

<技の稽古>

- ・ズードンの一定リズムだけではダメ：相手のパターンに応じた攻めを考える
- ・自分の中心を相手の中心に：①中心を攻めながら打つ、②リズムを変える、溜める、打つ。
- ・実戦ではその場打ちにならないこと。打たれ打ちと打たせ打ちの違い。相手に従って勝つ、左手、左足、左腰、その場打ちをしないこと。
- ・（自分から）攻め（圧をかける）-相手が竹刀を上げる-下がるところを乗る（面）
- ・（自分から）攻め（圧をかける）-相手が我慢できずに打って出たところを摺り上げる（表・裏）
- ・相手の竹刀のベクトルを変更したら、摺り上げ（表・裏）から面、摺り上げ（表・裏）から胴・相手の右胴は前に出ながら、相手の左胴は後ろに下がりながら打つ

剣の理法にかなった考え方や実際の技の練り方、出し方を分かりやすくご指導していただきました遠藤先生にあらためて深く感謝を申し上げます。



（参加者）順不同

遠藤勝雄、曾根孝悦、三條貞夫、阿部東悦、照井悦信、曾澤秀彦、三浦均、井上均、西口晃、盛島明彦、佐々木博嗣、小淵俊江、小原博生、小林房雄、文載圭、渡邊一仁

2 全国例会のご報告！

令和5年11月4日(土)～5日(日)、浜名湖湖畔の静岡県浜松市雄踏総合体育館において2023年度全国例会および第20回国際親善剣道大会が東海地区クラブの主管で開催されました。4日は理事会と自由稽古、審査研修・男女個人戦、夜は臨時総会と大懇親会、5日は国・地区別団体戦、自由稽古が実施されました。遠藤会長が審査長と審判長を務められました。参加者は190名（台湾30名、韓国25名、国際6名、東北13名、関東42名、東海51名、近畿23名、中国17名、九州6名）でした。東北地区は団体に2チーム出場いたしました。

<東北地区団体メンバー>

	監督	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将
Aチーム	三條	渡邊	盛島	文	西口	三條
Bチーム	阿部	及川	小林	阿部	小淵	阿部

◆個人戦の試合結果は以下の通りです。(敬称略)

- ・女子個人戦(5段以下) 優勝 小島真世(東海) 準優勝 李 沆祉(韓国)
- ・男子個人戦(60歳未満) 優勝 劉 煥龍(韓国) 準優勝 滝沢憲弘(関東)
- ・団体戦(男女混合) 優勝 東海A 準優勝 関東A 第3位 近畿A
- ・敢闘賞 橋田弘平(関東) 菊池雅樹(東海) 佐藤千早(東海) 浅野貴博(近畿)

今年は海外からも大勢の参加がありおおいに盛況な大会となりました。今年も見応えのある白熱した試合の連続でしたが、とりわけ団体戦での女性選手の攻防の理合に則った試合運び、技の冴えは素晴らしく見事で大変勉強になりました。

ホテルTHE HAMANAKKOで開催された臨時総会(440名中出席142名委任状188名)は三條理事の司会で進められ曾根理事長により議案の説明がなされて満場一致で承認されました。

◎2023年度補正予算案、2024年度事業計画案および予算案

◎台湾・高雄、ラトビア等、韓国、オーストラリア等の海外交流事業についてはコロナ禍以前同様に実施する考え。

◎2024年度理事会・通常総会および懇親会は5月3日(金)、ホテルオークラ京都で行なう予定。

◎全国例会・国際親善剣道大会は中国地区クラブの主管で11月9日(土)~10日(日)広島県福山市「エフピコアリーナふくやま」で開催と寺本理事から説明された。ホテル予約の都合上12月15日までに人数を取りまとめて欲しいとのこと。

◀ 今後の予定 ▶

開催予定時期	開催予定場所	備考
令和6年1月27日・28日(土・日)	山形県山形市	宿泊

4 昇段審査合格者のご報告!

- 六段 及川 成美先生(宮城) 11月 エスフォルタアリーナ八王子(東京)
 - 小林 房雄先生(宮城) 11月 エスフォルタアリーナ八王子(東京)
 - 教士 佐々木幹彦先生(福島) 11月 エスフォルタアリーナ八王子(東京)
- ご昇段おめでとうございます!!益々のご精進をご祈念申し上げます。

5 新入会者のご紹介

鈴木裕之先生(山形)、小原博生先生(岩手)

◆ 当クラブ副会長(本部理事長)曾根孝悦先生の著書紹介

「剣道は難しい、だから、楽しい」この著書は曾根先生が剣道を始めてから現在に至るまで、剣道を歩んできた事を集約したもので、指導の手引きや自分の剣道を高めるのに必ずや役立つものと思います。1冊1,000円で領布致します。各地区の指導者の皆様にも是非お勧めください。数がまとまれば発送いたします。

他地区クラブの幹事長紹介

お仕事や旅行などでお出かけのときは、剣道具を持って交剣知愛の機会をおつくりください。各地区クラブでは、どこでも大歓迎をしますよ。

北海道地区クラブ幹事長代行 出村大光氏 s-bungu@axel.ocn.ne.jp

関東地区クラブ 幹事長 小川 徹氏 tetujin-30@g08itscom.net

東海地区クラブ 幹事長 足立 誠氏 makoto.adachi51@gmail.com

近畿地区クラブ 幹事長 久保達也氏 tatsuyakubotatsuya@gmail.com

中国地区クラブ 幹事長 寺本昭彦氏 z04zkxf8fe@hi3.enjoy.ne.jp

九州地区クラブ 幹事長 山田雅士氏 m.yamada.kokura.k8@gmail.com

編集後記

小春日和が続いております。第95号は前号に続いて昇段の朗報と共にお届けすることができ嬉しく思っております。今年も先生方のご指導を賜りながら剣道を正しく学び、自分の剣道をより良く進化させようとの目標をもって皆様と楽しく交流できましたことに感謝しつつ最後の月をしっかりと過ごしたいと思っております。少し早いですが来年もご指導よろしく願いいたします。 (江俣和代)